

2018 年 北海道・東北の山巡記 (08/05～09/12)



妻の退職を機に、全く定め事なく奔放な旅を楽しもうと企てた旅、但し定め事なくとしても「北海道の山行と観光を兼ねほば全道を巡る」は、最低限の定め事とするも、日程、費用、行程については其の場しのぎとして事前に考えることもしなかった。

所属する、山岳会には、緊急連絡先の依頼もすることから、さすがに自由奔放に登山するとも言えず、形式的には、北海道の百名山を登るとテーマして計画を提出して旅立った。

平生から様々な山に行き、同じ山を何十回となく登り続け「日本百名山」等、殆んど意識して歩いたこともないのに、今回は「北海道の百名山を登るとテーマ」したことから、一種義務感めいたものを抱いてしまった感はあるも、敢えて印象に残った山、私たちにとってサブライズの意味合いを込めて、恵庭岳 トムラウシ山 利尻岳、斜里岳、雌阿寒岳、アポイ岳 鳥海山等それぞれ、曰く日本百名山著者『百の頂に百の喜びあり』まさにそれを実感した旅となった。

巡った山々

8月8日 羊蹄山

10 日 北海道駒ヶ岳

11 日 有珠山

13 日 惠庭岳

17 日 旭岳

19 日 十勝岳

20 日 トムラウシ山

23 日 白雲山

28 日 利尻岳・礼文岳

31 日 知床(礼文)→桃岩→香深

9月3日斜里岳

- 4 日 羅臼岳
- 7 日 雌阿寒岳
- 8 日 アポイ岳
- 11 日 鳥海山

山巡り記

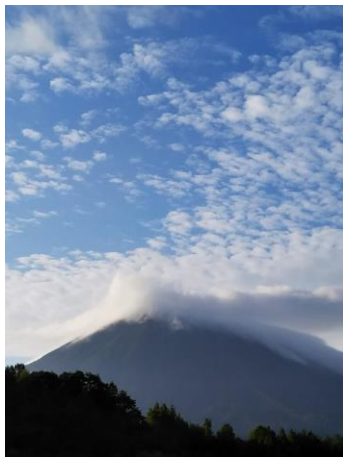
1. 羊蹄山

日程:2018/08/08

山名:羊蹄山(後志支庁の山) 1898m

行動:比羅夫登山口 7:00→後方羊蹄山 13:00→17:00 比羅夫登山口

歩行距離 12 km 歩行時間 10 時間



北海道の山巡り、皮切りは羊蹄山、国道から見上げるも上部を霧に包まれ全容を隠したまま。後方羊蹄山(しりべしやま)とも、先住の民達は、マッカリヌプリと呼んでいたそう。登山口で車のドアを開けたとたん沢山の虫たち(アブや羽の長い黒い虫)から熱烈な歓迎を受ける。

5 合目辺りから、愛知県から来たという単独女子高生と抜きつ抜かれつ、オープンキャンパスに来道ついでにとのこと、登山と弓道部所属と活発で利発そうな方、むろん最後には私たちを抜いていった。

九号目あたりから徐々に強くなる風、イワキキョウが群れ咲く小火口の淵に上がったところよりかなりな強風となり、そこからピークで強風とガスで視界が聞かない道程はかなり長く感じた、もちろんピークも強風とガスで歓迎してくれた、頂を隠し視界が利かない中にも、豊かな高山植物と富士と見紛うような美しい裾模様、北海道最初の山それは正に名山でした。

2. 北海道駒ヶ岳

日程:2018/08/10

山名:北海道駒ヶ岳(蝦夷駒ヶ岳)1131m(渡島半島) 最高到達点 902m(馬の背)

行動:赤井川登山口(六号目)10:00→馬の背(北海道駒ヶ岳)11:30→12:30 登山口

歩行距離 4 km 歩行時間 3 時間 40 分



1131mの頂は、現在火山活動の危険性から、馬の背(900m)より上のへの立ち入りが許されていない。

大沼公園から眺める北海道駒ヶ岳、その美しい姿は大沼公園に貼られた観光ポスターで見たのは昨日、

翌日の今朝、通り掛かった車中で登ってみようと思いつ、事前に用意した計画書は持たない、会にはメールベタ打ちによる計画書作成送信、登山口に供えられた入山届を記載投入。林道終点の五合目から登山開始そのうえ火山活動活発につき馬の背より上は立ち入り禁止となっているため行程は短い。

歩き始めて間もなく振り返ると一昨日訪れた大沼公園が霧の隙間より見えたのはほんの一瞬のこと、間もなく霧雨に包まれることに、その後、大沼公園から見上げたあの観光ポスターのような美しい駒の姿を見せることはなかった。

やがて雨が降り出した緩やかな傾斜を更に上がるとイワキキョウが群れ咲く霧の馬の背に到達、ガスの中にも一種感動を覚えるのは登山者の性情か。

3. 有珠山

日程:2018/08/11

山名:有珠山(支笏洞爺国立公園) 733m(大有珠) 最高到達点 573m

行動:登山口 9:10→有珠外輪山展望台 11:20→13:00 有珠火口原展望台→14:00 有珠外輪山展望台→15:00 登山口

歩行距離 9.7 km 歩行時間 5 時間 15 分



よく下調べをしないまま洞爺湖畔へ、そこはロープウェイ乗り場の登山口、やはり歩いて登ろうと更に時計回りに有珠山裾野を一周して西側の登山口へ。

外輪山展望台はガスに包まれて全く展望なし、マー こういう時もあるさ(北海道に来てからほとんどこればかりだが)と、おにぎりを頬張っていると、突然ガスが引き、噴火口が目の下現れた。二つ並んだ火口の南淵を巻きながら大有珠側の展望台へ向かう途中から徐々にガスが切れ火口や有珠山が見えるようになる、やがて長い木の階段を上るとロープウェイ有珠山頂駅の上、有珠山火口原展望台へ出た、本来見えるのであろう洞爺湖は霧の中、ガスが消えかかり火口が見え隠れする往路を戻り下山。

4. 恵庭岳

日程:2018/08/13

山名:恵庭岳(支笏洞爺国立公園)1320m

行動:ポロピナイコース登山口 9:00→第一展望台 11:50→恵庭岳 13:20→第一展望台 14:20→16:00 登山口 歩行距離 8 km 歩行時間 8 時間 10 分、



前日、今日は少しゆっくりしようと、近いところのキャンプ場へ問い合わせるも、お盆で何処も満員の様子、予約制ではないので順番を待ってもらうしかない、つれない返事。

致し方なく、移動距離が少ない支笏湖の野営場で入場路に並ぶ、入場までになんと 2 時間、その上結構広いキャンプ場は既に先客のテントで張る余地も殆んどない、先客と先客の間にすみません貼らせてくださいと断り僅かなスペースにやっと設営する。

それでも、対岸を見上げると樽前山、恵庭岳等、中でも目の前に聳えるその美しい姿に明日

はあそこに登ろうといつものように思い付いて、計画書はスマホで作成。

一夜明けて、支笏湖を左回りに対岸の丸駒温泉側の登山口へ、仰ぐ方向を違え支笏湖北岸から見上げる恵庭岳は岩塊の頂稜部が天空を突き刺すようにそびえている。

第一展望台では視界が開けるも、眼下の支笏湖はガスの間から一部が見え隠れしている、第二展望台より上は火山による崩壊著しいことから立ち入り禁止とされている。

ただその先は、頂稜部へは崩落、落石部を避けて西側に大きく迂回しながら登る人も多いようだ。

山容といい、第一、第二展望台からの火口裂の眺め、ガスの切れ間から垣間見る支笏湖、青い水を湛え神秘的に佇むオコタンペ湖、それらは、期待以上(よく調べていなかったせいもあるが)の驚きを与えてくれ、忘れられない山の一つとなった。

5. 旭岳

日程:2018/08/17

山名:旭岳(大雪山連峰) 2291m

行動:姿見駅 11:00→旭岳 13:50→姿見駅 16:00

歩行距離 6.5 km 歩行時間 5 時間



迷いに迷った末、メンバーには、縦走計画を変更ピークハント折返し可能性大の条件で出発した結果条件通り、旭岳ピークハントとなった。

北海道へ来てから、停滞前線を伴う低気圧、気圧の谷に付きまとわれ、ずっと不安定な気候が続いている。

16 日から、旭岳→トムラウシ山→十勝岳縦走を目論むも、このところも停滞前線に加え更に寒冷を伴う気圧の谷が留まり 2000m 付近は 3~4℃。と、高いところは非常に不安定な天候、日程の関係もあり何とか決行をと思うも全装備を背負ってはきつい、少しでも上向きになることを祈り入山を 1 日先延ばす。

17 日、下界は大丈夫でも上は悪いよといいながら、取敢えず縦走向けて出発、取敢えず白雲岳、無理ならば裏旭天泊、それも無理なら旭岳ピークハント、更にそれも無理なら途中引

き返しの条件をメンバーに示し全装備を担いで登山口の旭岳ロープウェイ駅へ、いきなり強風のためロープウェイ運休中と係員、歩いて登れるがどうせこの天気だ、慌てることもあるまいと運行開始を待つ。

2 時間待ちで運行再開、姿見駅は 11 時スタートとなる、姿見の池から稜線に上がったとたん北からの猛烈な風に体がよろける、六合目付近では耐えられず戻る登山者もいる、メンバーに進退希望と体調を問うと大丈夫だという、今日は行けても旭岳までで引き返す事を納得させ続行する。

徐々に雪やミズレが混じった風にあおられる、金庫岩に出るとなんと斜面には積雪が、何とか頂上にたどり着く、一瞬裏旭との思いがよぎるが、お約束通りに来た道を引き返す。案の定とばかりに、姿見駅まで僅か 700m 下ったところには薄日がさしみヤマリンドウも開き、ロープウェイの窓からは七色に虹がかかっていた。

6. 十勝岳

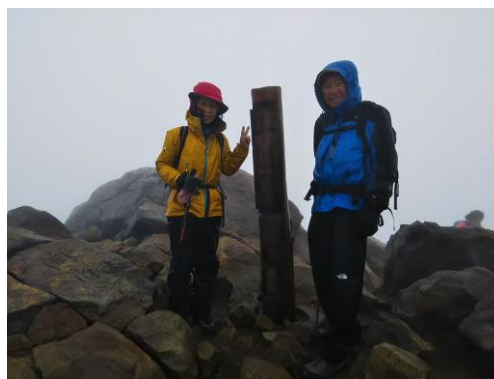
日程:2018/08/19

山名:十勝岳(十勝岳連峰)2077m

登者: 3 名

行動:望岳台登山口 6:20→十勝岳避難小屋 7:30→十勝岳 10:20→十勝岳避難小屋 13:00→14:00 登山口

歩行距離 11.5 km 歩行時間 7 時間 40 分



寒気を伴う低気圧とその谷にすっかりお気に召された北海道遠征 13 日目、メインイベントの旭岳～十勝岳の縦走をあきらめ、分解イベントそのⅡ十勝岳から美瑛岳をめぐるミニ縦走を計画で出発。

登山口(望岳台)に着いた瞬間見えていた火口付近は身支度するうちにすっかりガスの中に消え、相変わらずすっきりしない天候、歩き始めて間もなく雨が降ってきた。

降ったりやんだりする道を十勝岳避難小屋へ、何やら幟を立てる人が、伺えば、本日行われ

るトレールランニングの折返し地点の係の方だとか。いよいよここから火口に挟まれた尾根にとりつく、ますます霧が濃くなり登る尾根の南北にあるはずの火口は全く見えない、火口に挟まれた尾根を更に登るとやや傾斜が落ちて広くなる、かなり小まめにペイントマークが設えてくれてある、これがなければこんな日は歩けないだろう、一昨昨日この火口に迷い込んで無くなった登山者の報道がされたばかりだ。

ただ足元を見るばかりでもようやく雨の十勝岳のピークに付くことができた、風は北西 10～15m. 美瑛岳への縦走を取止め往路を引き返すことに、ここでとんだハプニングが、下降をはじめて間もなく、頂上でセッティングしなおしたコンパスの針が指す方向に登山道が向いていない、もう少しで北に向かう登山道があるのだらうと 7～80m も下ったろうか、相変わらず登山道は針と 90 度もずれた西に向いている、やがて通った事がない地形に、ようやくこれはおかしいと気づき引き返すと頂上直下で間違い富良野岳への縦走路を進んでいた。ところが合わせなおしたコンパスの進行方向が合わない、上ホロカメットクへの縦走路と望岳台への分岐点までは仕方ないかと思い下り続けるが分岐が見つからない、ようやく登りと違う地形に気づき間違ったことを知り今来た道を上り返す、分岐はほぼ頂上のところにあった、あまりにも近すぎて見逃していた。

相変わらずガスの中を火口の様子も観ることもなく視界が利くようになったところは、雨に濡れたリンドウが咲き乱れるガレ場の下りから解放された十勝岳避難小屋のあたり、望岳台まで戻ると出発時より更にガスに覆われた十勝岳の裾野だった。

7. トムラウシ岳

日程:2018/08/21

山名:トムラウシ山(大雪山系) 2141m

登者:3 名

行動:短縮登山口 05:00→トム前平 09:20→トムラウシ公園 10:10→トムラウシ分岐 11:00→11:45 トムラウシ山 12:20→トムラウシ分岐 12:40→トムラウシ公園 13:20→トム前平 14:10→コマドリ沢分岐 15:00→カムイ天上 16:30→17:30 登山口

歩行距離 15.5 km 歩行時間 12 時間



北海道 7 座目にしてようやく視界開けるピークを踏むことが出来た。

前日、短縮登山口にテントを張りかけるも、あまりにも気持ち悪く(ヒグマ)食事を終え即撤収車中泊に。

目覚めれば星空、短い周期で変わる天候に今日一日持ってと祈りながら出発、出だしはよく整備はされている登山道もやがてぬかるみも多い登山道に、それでもコマドリ沢に入るとまるで別天地に、咲き誇る高山植物にメンバーから歓声が次々と、それを過ぎた岩の登り坂甲高い声を響かせてナキウサギが愛らしい姿をそこかしこに姿を見せる。

前トム平からトムラウシ公園までの間はエベレスト街道トウクラ(チョクビ・ララ)に似ている、そこを超えた小さな岩山で横須賀からおいでになったというご夫婦の夫が、北海道に来てから腰を痛めたが最新の熊スプレーも持参した何とか頑張ってみると。

トムラウシ公園では池塘に逆さに映されるトムラウシ山が美しい。

途中コマクサを見つけながら頂きに出て思わずオーッ、北には四日前、初冠雪に登った旭岳、南には美瑛岳だろうか、更にその先には一昨日ガスにまかれながら登った十勝岳が、今日は己が目で見渡すことができる、北海道 7 座目にして初めて晴れ渡る山の頂に出た思いだ。

夕方より雨予報の天気予報はしつかり的中、入山口へ降る少し前から雨につかまりそれでもそれ程濡れずに駐車場へ、トムラウシ温泉に着いた頃はしっかり本降りに、トムラウシの湯に浸りすっかり気持ちと体は癒された、下へ降りる豪雨の林道では倒木で 1 時間待機を余儀なくされたが昼の余韻が気持ちを宥めてくれた。

8. 白雲山

日程:2018/08/23

山名:白雲山(然別、士別)1186m

登者:3 名

行動:登山口(ヌプカ)9:30→然別分岐 11:00→11:30 白雲山→13:00 登山口

歩行距離 4.5km 歩行時間 4 時間



昨日、降りしきる雨の中を然別湖へ、今日はどうしようかと当てもなく web で検索して、

今日なら空いているという反対側のロッジ(ヌプカの里)へ、近場なら白雲山へと勧められるまま、翌日の今朝、風の強い白雲山へ優しい登山道を頂上向けて、頂上まで高度差あと 100m のところで、まるで岩片を積み上げたような山が東側に、そちらに向かって「岩石山」との標識がまさにピッタリのネーミングか、やがて昨日訪れた然別湖からの登山道と合流すると間もなく、大岩を並べたような強風の頂上直下に出る、雨の湖畔から眺めた昨日と違い、山頂から俯瞰する然別湖は山間奥まで広がりを見せる美しさは格別だった。

9. 利尻岳(利尻山)

日程:2018/08/28 日

山名:利尻岳(利尻礼文サロベツ国立公園)1721m

行程:利尻北麓夜営場 03:15→07:00 長官山→利尻島山避難小屋→08:40 利尻岳 09:40→避難小屋→10:50 長官山 11:00→14:00 北麓夜営場

歩行距離 13km 歩行時間 12 時間



晴れの登山は北海道 2 座目、以前、視界なくも一種感動は・・・性情かと記したが、晴れに勝るものはない

午前 3 時は月明り、歩きだしてすぐの樹林帯に入ると月は遮られ闇夜となる、ヘッドランプ頼りに歩みを進める、6 合目直下でご来光がある、思えばトムラウシ山以来であろうか晴れの登山は、八合目(長官山)に上がるといきなり目の前に姿形も美しく利尻岳がその姿を現す。

少し下った避難小屋では環境省調査をドローンで行うのでとお断りをと女性担当者がご挨拶、なんとご丁寧なことか、何えは火山岩が脆くなり、植生に配慮しながら登山者の安全にも配慮して登山道の付け替えも検討する材料にと、九号目辺りから頂上部にかけては女性の言葉通り崩壊著しい登山道となる

さて、その頂きからこの島の周囲 360 度がすべて見渡せることに改めて感動を覚える、加えて北西には礼文島がまるで平たい南洋の島のように見える、そのかなたは空の青、海の青がまるで一体のごとくに、一見どこにでもありそうな風景だがこの姿はここにしかあるまい。

あまりの素晴らしさに再び来る機会はないかも知れないと思うと、降るのが勿体なく気が付けば1時間もの間を頂きで過ごした。

麓に向けて降りながらその素晴らしい風景を惜しむように何度も足を止めて見入った。

10. 礼文岳

日程:2018/08/29～30 日

山名:礼文岳(利尻礼文サロベツ国立公園)490m

行動:内路登山口 11:15→合流点 12:10→礼文岳 13:00→合流点 13:35→1415 登山口

歩行距離 8.5 km 歩行時間 3 時間 30 分



昨日とは逆に、今度は礼文島から眺める利尻島の美しさに期待するも礼文に渡った頃にはすっかり霧に包まれてしまった。

訪れる人も多い礼文「島」、しかし、ここ礼文「岳」を訪れる人は意外と少ないようだ。いつものことなのか、この日が特別なのか分からないが、礼文岳で会う人は少なかった。取付きの登りから全装備を担いで登り、水平（高度 150m）なところに出たところの立ち木にザックを吊るしてデポ、行動食、水で身軽に歩く。

昨日、利尻から眺めたここ礼文岳、今日その逆から眺めることは叶わなかった、そしてこれ以降、北海道本島に戻った後、稚内、宗谷からもその姿を見せることはなかった。

下山後、久種湖でテント、翌日徒歩で澄海岬からゴロタ海岸を歩きスコトン岬へ、更にその翌日は北のカナリアから桃岩コースへと都合 3 日間滞在、さすがに観光コースには訪れる人も多く、来礼時同船した見覚えある人達とそこかしこで出会うことが多かった、そんな人たちに交じりのんびりと礼文を堪能した。

11. 斜里岳

日程:2018/09/03

山名:斜里岳(斜里岳国立自然公園)1535m

行動:清岳荘 8:00→下の二股 9:00→上の二股 10:50→馬の瀬 11:20→11:40 斜里岳 12:15→
馬の瀬→熊見峠 13:40→15:20 清岳荘

歩行距離 10km 歩行時間 8時間 10分



なんとも不思議で魅力的な斜里岳、登ってみてそのよさ(百の山のひとつと数えられた)に納得させられる山行だった。

その魅力と言え、美しい数々の滝に沿って登る下の二股から上の二股間に凝縮されると言って過言ではないようだ。

台風接近前に手っ取り早い山をとりつく、大きな期待は持たないでやってきたが、入山口から下二股まで右岸から左岸へ左岸から右岸へと 13 回(途中一緒になった登山者と下山後に話したところ、その方が数えたそうだ)渡渉する、やがて下二股という沢道と尾根道の分岐にでる、ここからがようやく滝身に沿って登る所だ、先ずは最初に出てくる水連の滝二段は、右岸を高巻いて滝身に回り、又渡渉、今度はきれいな滑の中を遡るようと、こんな繰り返しを重ねる内に上二股にと兎に角行ったものにしか分からないというほど楽しいところだった、やがて涸沢を辿りガラ場を登ると馬の背に出る、更に登ると程なく小ピークを過ぎガレたところを僅かに詰めると斜里岳に達する、帰路はピークを眺めながら尾根筋をその名も熊見峠などと恐ろしい標識から急な道を降ると、登りで分かれた下二股に戻る。

12. 羅臼岳

日程:2018/09/04

山名：羅臼岳(知床国立公園) 1661m

行動：岩尾別温泉 07:00→羅臼平 10:00→11:00 羅臼岳 11:10→羅臼平 12:00→15:10 岩尾別温泉

歩行距離 15.5 km 歩行時間 8 時間



前日斜里温泉を出たところで、明日から台風の影響が出るから明日は登らずに少し様子見として、今日はこの辺りでキャンプ場か道の駅でという私に、「少しでも登山口に近いところへ行っておかない」という連れ合いに曖昧に返事をしながら岩尾別温泉に近いウトロの道の駅まで足を延ばした。

明けて5時、台風はまだそれほど近づいていない、よし行こうと、朝飯もそこそこに岩尾別目指して車を走らせる。

登山口から少し上がったところで偵察にでも行った帰りか、上から、空身の人が「もう10分上がったなら携帯の電波が入りますから安心ですよ」と教えてくれる。

台風の影響かやはり風強い、弥三吉水から極楽平の水平は超速足で、やがて羅臼岳がガスの間から見え隠れするようになる、大沢では高山植物が多くなり、驚いたことにツゲルがまだ花びらをつけてものがある、もう9月というのに遅くまで残っていた雪田の下にいたのだろう、本当に珍しい。

羅臼平を過ぎると更に風は強くなってくる、下ってきた登山者から「頂上はものすごく風が強いから、途中でザックとストックと帽子をデポしていきなさいよ」と、ありがたいご忠告を頂く。

ご忠告通り、頂上の風は30m/sec近いのではないかと思われる程の爆風が吹いている、畳二畳程の頂上を這いつくばって移動しなければ飛ばされそうだ。

それでも、半ば念願だった「羅臼岳から北方四島を見てみたい」目の前にして大いに満足、早々と頂を後にするも風裏に出るまで迄ストックで互いを支え合いながら降った。

極楽平を歩きながら、強風と積雪に押さえつけられた樺の木が不思議なことに、揃いもそろって北西寄りに傾いていることに気が付いた、北アルプスの木々たちとは全く正反対の方

向だ、つまり常に南西の風に晒されているということだ。

麓に近づいているのにも関わらず、登り始めた朝方とは違ってずいぶん風が強く吹いている、何とかすれすれで大荒れになる前に岩尾別温泉へ降ることができた少し無茶だったと反省。

岩尾別温泉「地の果てホテル」でおすすめの混浴露天風呂につかり羅臼の山々の旅に満足を覚えた。

13. 雌阿寒岳

日程:2018/09/07

山名:雌阿寒岳(阿寒摩周国立公園)1499m

行動:オンネトー登山口 5:00→七号目(阿寒富士分岐):00→8:00 雌阿寒岳 8:20→七号目(阿寒富士分岐)→10:30 オンネトー登山口

歩行距離 15.2 km 歩行時間 9 時間 40 分



大地震の翌日、こんな時に登山との思いもあったが、むしろ被災地近くへ行くよりはと出発、ホンマチネシリはじめ阿寒富士など大小八つの火山から成り立っているという雌阿寒岳は見える限り赤茶けた岩といたる所から吹き出す蒸気、すぐ目の前の阿寒湖と寄り添うようにそびえる雄阿寒岳忘れられない山の一つに。

摩周からオンネトー登山口を目指す間、暗闇の道路に幾度もエゾシカが現れる、中には目の前を横切るものも、着いた駐車場はまだ闇の中、そのまま車中にて夜明けを待つ。

歩き始めて 2 時間程やがて樹林帯を抜けるころ右手に黒い山肌の阿寒富士が姿を見せはじめる、僅かな灌木帯を抜ける 1200m 付近から如何にも火山らしく砂礫の登山道となる、阿寒富士の黒い山肌につけられた雷型の登山道が見える、やがて噴火時の逃げ方注意、逃げ方向の場所が変わる注意看板が至る所に建てられているところに出る。

もう近いはずと思った雌阿寒岳ピークは火口の東側半周巻いて 1 時間と長い登りが続く、八つの火口から成り立つという雌阿寒岳のその火口原の広いこと、南には先程より登り甲斐がありそうに見えた阿寒富士が小さく見える、そして北側には暗いうちに通り過ぎてきた阿寒湖が東側に雄阿寒岳を抱えてなんともすばらしい眺め。

結局誰にも合うこともなくオンネトー湖面に戻る、そこにはその美しい姿を逆さに映され

た雌阿寒岳と阿寒富士が並んでいた。

もう一つ特筆すべきこと、大正8年開湯という野中温泉。木造の建物、湯舟、洗い場に蛇口はない、あるのはかけ流し湯パイプと水のパイプが一本ずつ、「火山ガス中毒防止の為、窓は閉めないでください」と張り紙され、開け放たれた窓からは外の様子がよくわかる、つまり外からも中の様子がわかるわけだ、男湯の露天に囲いはない、露天の女風呂にはさすがに囲いはあるものの隙間だらけ、それでも連れ合いは入ってきたという。

北海道に来てから、いずれもいい湯ばかり、もう一度入りたいと思う風呂も多くある中、これぞ温泉まさしく名湯だった

14. アポイ岳

日程:2018/09/08

山名:アポイ岳(アポイ岳ジオパーク)810m

行動:登山口(アポイ岳ジオパークビジターセンター)13:30→五号目 15:00→馬の瀬 15:30→アポイ岳 16:00→馬の瀬 16:30→五号目 17:00→18:00 登山口(ビジターセンター)

歩行距離 8.8 km 歩行時間 4 時間 50 分



襟裳岬を訪ねるのであれば、是非アポイ岳(日高山脈支稜線最西南端)へも低いがいい山ですよとは山仲間のおすすめ。

襟裳岬を訪ねたその足で、遅い時間の出発とはなったが、お言葉通り登ってみた、その道中には幾か所かに設えられた熊避け釣り鐘をしっかりと打ちならしながら歩いた。

アポイ岳固有の植物も多い、花の百名山として有名な山とのこと、頂上直下にこの山固有のアポイミセバヤが綺麗な姿を見せてくれていた。又、また馬の背から眺める様似町を曲線でなぞるように美しい海岸線には格別のものがあつた。

遅いスタートだったので登山口へ戻ったのは日没と同時くらい何とかヘッドライトのお世話になることは免れた。

15. 鳥海山

日程：2018/09/11

山名：鳥海山(鳥海国定公園)2236m

行動：登山口 5:45→河原小屋 7:20→9:50 伏拝岳 10:10→七高山 10:50→11:10 鳥海山
11:30→12:00 御室小屋 12:20→伏拝岳 13:20→14:40 河原小屋 14:50→15:50 登山口
歩行距離 12.15 km 歩行時間 10 時間 50 分



道央圏に近づくにつれ、まさに物見遊山の私達は、被災者の皆さん方に気が引ける思いを覚えながらも、偶然ともいえるタイミングでフェリーに乗船、ほうほうの体で北海道を脱出した。

翌 11 日、当初予定にはなかった、鳥海山を訪れた。

北海道の山旅としては、番外となろうがこの旅の締め括りとなった鳥海山、こんなにゆったりと山を歩いたのは過去にあったかと思うほどの行程、まだ暗い霧に隠された道路を上り、林道終点の登山口に着いたのは確か 3 番目だったはず、それがすでに 10 台以上に、そしてスタートはしんがりとなっていた。

北海道でやり忘れたものを取り戻すように、早くも実を赤く染たナナカマド、河原小屋までの登りでは裾に広がる庄内平野とその前に日本海が、遥か北に見えるのは男鹿半島だろうか、南を振り向けば月山がガスの隙間から。

河原小屋から見る鳥海山の南西斜面にはまだ大きな雪田がもう消えることはないのだろう、遅くまで解けない雪田の端からはイワブクロ、ウサギギク等がまだ色鮮やかに開いている。やがてアザミ坂と名付けられた坂が尽きると、伏拝岳に出るそこからは火山特有の砂礫道となり頂上火口裂を東に大きく巻きながら七高山へ、そこからいったん引き返し降って、大岩を積み上げたかのような、新山(鳥海山)頂へ上る、やはり大岩を積み上げた体の頂上は狭く不安定な僅かな広さから見える青空と日本海は登ってきたぞとの感を強くしてくれる。そこから眺める庄内平野と日本海の美しさは、今回の遠征を締めくくるに相応しい思い出深い山となった。

◎幌尻岳(計画のみ)

幻の山 幌尻岳（日高山脈襟裳国定公園）2052m

渡道直後より安定した天候に恵まれることが少なかった北海道の山巡り、どこか 2 日間天候がよい時にと先延ばし、ようやくその時期かと思ったタイミングで思いもよらぬ大地震が発生した。

9 月 6 日、午前 3 時 8 分、北海道胆振地区に発生した地震は「北海道胆振東部地震」と名付けられ、北海道では初めての震度 7 強という、大勢の犠牲者をはじめ甚大な被害を及ぼした。

震源に近い幌尻岳への交通も断たれ、まさしく物見遊山の私たちが此处にいる事さえ場違いで、罪悪感にいたたまれない思いを強くした。

心では、私たちにとって再び訪れる機会もないことだろうとの思いを胸に、この山は私たちにとって幻の百名山となった。

その他、備忘

1. 計画書提出について

道内多くの山の登山口には、入山者名簿(登山計画書とは別の物)が供えられ、入山日、氏名、住所等記載するようになっているが、多くの場合「森林管理署及び支署では、「登山計画書」(登山届)は受け付けておりません、登山計画書は警察署への提出をお願いします」と登山計画書は別途北海道警察へ提出するよう記されている。

2. ヒグマ対応

一度、残飯等を食べたヒグマは、残飯等に執着し、登山者につきまとうなどの行動をとる、そのため山中では絶対に残飯等を放置せず、必ず持ち帰ることと警告される。

テント場の食料はテント内保管厳禁とされ、100m 以上離れた場所に設置されているフードコンテナ(鉄製ロック機能付きボックス)に保管する。

クマ除鈴、ラジオ、熊除スプレー、場所によっては半鐘等、これらの存在を知らしめる自衛策を講ずることが求められる・。

3. 地図、地形図

北海道は緯度が高いため、磁北西偏が 8 度 4 0 分～8 度 5 0 分と大きいことに留意。

4. 環境

- ① 携帯トイレ(400 円程度)持参利用、トイレブース利用
- ② ストックの利用法(保護キャップを着用して利用する)
- ③ 火山多く崩落進む山多し、噴火、硫化水素ガス中毒、落石、スリップ滑落に注意。
- ④ 北海道固有の高山植物多し

- ⑤ 少ない登山者(本州に比して)
- ⑥ 虫多し要対策(虫よけスプレー、防虫ネット等)

5. 生活

- ⑦ 野営場多し(安価で設備充実)
- ⑧ 道の駅数豊富 設備充実(車中泊可能)
- ⑨ コンビニ全道展開の「seikomart(セイコーマート)」道内最大店舗数 おにぎりが美味しい
(但し店舗によっては6:00~22:00 営業店が多い)
- ⑩ 風呂、温泉(車による移動であれば比較的容易)

⑥その他

複数人で短期間(5~10 日前後)の旅行とあれば、往復飛行機利用で、現地レンタカー、レンタルテント等上手に組合せ利用すれば、コストパフォーマンス的には有利と考えられる。